

「広域フードパントリーむすびや」開設概要

令和3年（2021年）6月22日

1 趣 旨

今、コロナ禍により生活に困窮する方が増加しており、県内各地で食の助け合い活動が広がっています。しかし、市町村域だけでは、支援食糧の過不足調整に課題があり、広域で調整できる機能や拠点の確保が課題となっていました。

そこで、このほど、4つの社会福祉法人が連携して、支援食料の広域調整のためのパントリー（倉庫）を設け、ここを拠点として全県的な食の助け合いの推進や活動団体間の連携を促進します。

2 連携拠点 「広域フードパントリー むすびや」 住所 長野市新諏訪 1-1-60（旧旭寮）

○「むすびや」とは

手と手をむすび、人・地域・団体どうしがつながる。だれ一人取り残さない、より良い暮らしへむすびつく。暮らしの安心とやさしさの循環を促進する広域食料倉庫拠点として名づけました。

3 参画団体と役割

○ 社会福祉法人 信濃福祉施設協会

- ・ 旧「救護施設旭寮」の施設をこの拠点として提供。
- ・ 生活困窮者を支援する「ゆめのは事業」に取り組む。

○ 社会福祉法人 長野市社会事業協会

- ・ 県内全域のまいさぼ相談者等の依頼に応じて、「社事協フードバンク事業」（個別配送支援）を実施。

○ 社会福祉法人 長野市社会福祉協議会

- ・ 長野市内での食の助け合い活動を推進。
- ・ まいさぼ長野市相談者への支援。

○ 社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

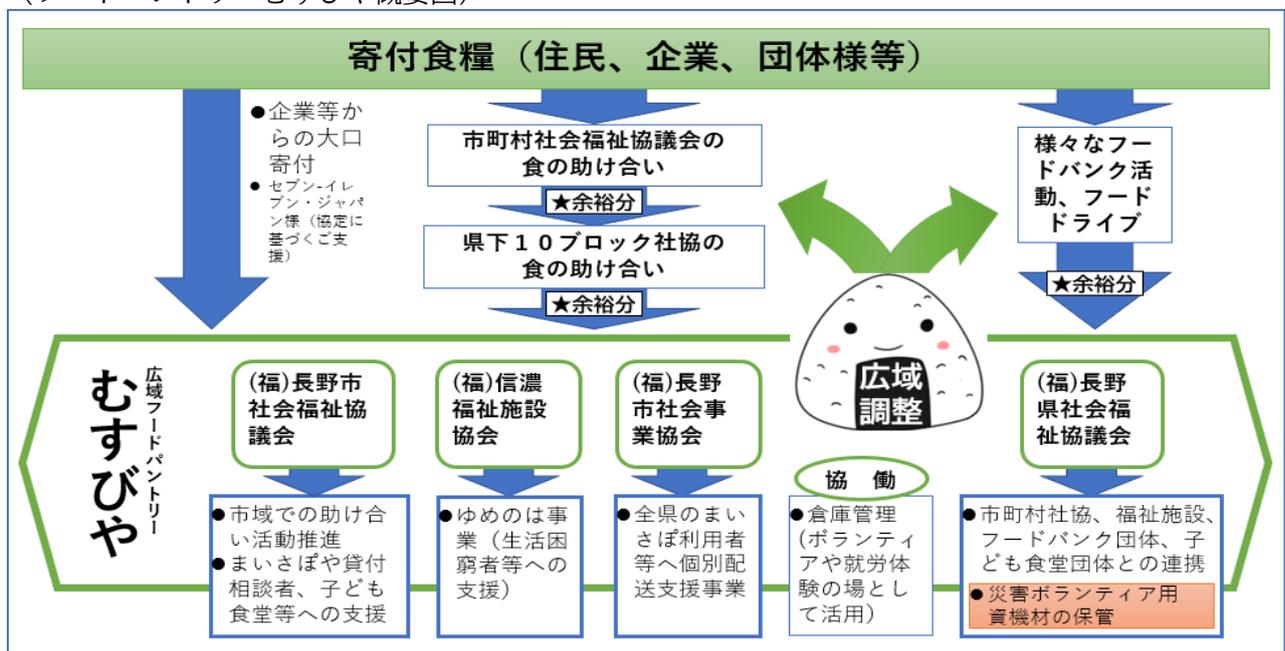
- ・ 77市町村の社協やフードバンク団体との連携
- ・ 「むすびや」の運営とりまとめ

※ 災害ボランティア用資機材の保管

○「むすびや」の目指すもの

- ・ 支援食糧の広域調整
- ・ 食品ロス防止
- ・ 市町村社協やまいさぼ、各地のフードバンク団体との連携強化
- ・ 社会福祉法人地域貢献事業連携の促進
- ・ 「福祉×企業」連携の促進
- ・ 寄付文化の醸成

（フードパントリーむすびや概要図）





昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第784号
令和3年2月25日発行
(毎月25日発行)

福祉だより 信州

社会福祉 HERO'S vol.10

法人連携で一人ひとりが輝ける
まちづくりに貢献する。

詳しくは巻末をご覧ください。



特集

多様な個性が輝ける職場づくり
～長野県福祉人材確保・定着支援セミナーから～

No.

784

2021 3・4月号

社会福祉 HERO'S

ウェブサイト「ひとりひとりが社会福祉HERO'S」から引用しています。
http://www.shafuku-heros.com/

福祉の現場で活躍する
ヒーローたちをご紹介します。



箕輪町社会福祉法人連絡会メンバー(6法人)
(福)平成会 (福)長野県社会福祉事業団
(福)サン・ビジョン (福)上伊那福祉協会
(福)ふれあい (福)箕輪町社会福祉協議会



webでも
ご覧になれます

Q ふれあいの里が、地域とのつながりで大切にしている取組を教えてください。

A 多様性の中で生活出来る。歳を重ねる中で、利用者の方、職員も皆ちがって良い。理念にも掲げている「老いを共に楽しむ」を大切にしています。

介護が必要な状態になったとしても、人の可能性を追求し、当たり前の生活をいかに送れるのかを施設の中で完結するのではなく、地域の方にもお手伝いしていただき一緒に作りながら楽しさにつなげていくことをしています。

箕輪町社会福祉法人連絡会は、6つの社会福祉法人が参画し情報交換や地域貢献活動、福祉教育などへの協力体制を話し合っています。この会議の中で、東日本台風被害の現状を受け止め、自分たちの地域での防災への取組を進めていくことになりました。

そこで、本連絡会が発起人となり、町内の福祉事業所の方々、町役場や関係機関と共に学び情報交換をする場として「災害時たすけあい計画検討会」を開催しました。当日は、オンラインでも参加者をつのり14事業所がコロナ禍でもお互いに学び話しあえる機会となりました。

連絡会のメンバーである、ケアセンターふれあいの里（以下、ふれあいの里）施設長の秋葉智大さんに、法人の社会貢献事業について伺いました。

災害時たすけあい計画検討会の様子



ハザードマップを見ながら、地域情報や課題を話すグループワーク



お互いの顔の見える関係性づくり助け合える関係づくり



オンラインも活用し、防災への取組を話し合う



(福)ふれあい 施設長秋葉智大さん

Q これまで地域の方々と、どのような活動を行ってきましたか？

A 地域行事への参加や施設企画として、子育て世代や学生、利用者やその家族も含めたごちゃまぜの多世代交流を行ってきました。

Q 社会福祉法人が、地域の中で担う役割としてどのようなことがあるとお考えでしょうか？

A 共生社会の実現に向けて、様々な取組ができる可能性があると思います。認知症や障がいがあっても住みやすい町づくり、介護現場の魅力を若者へ発信、就労支援など連携して行っていくことで一人ひとりが輝ける箕輪の魅力作りにつなげていくことになりました。

人口減少がある中、若者、高齢者、どの世代でも住み続けたいと思えるような地域になれば、福祉のネットワークだけでなく、地域に暮らしているそれぞれの立場から住みやすい地域に対してのアイデアを出し合い、形にしていきたいと思っています。

Q これまで地域の方々と、どのような活動を行ってきましたか？

A 地域行事への参加や施設企画として、子育て世代や学生、利用者やその家族も含めたごちゃまぜの多世代交流を行ってきました。

Q 社会福祉法人が、地域の中で担う役割としてどのようなことがあるとお考えでしょうか？

A 共生社会の実現に向けて、様々な取組ができる可能性があると思います。認知症や障がいがあっても住みやすい町づくり、介護現場の魅力を若者へ発信、就労支援など連携して行っていくことで一人ひとりが輝ける箕輪の魅力作りにつなげていくことになりました。

人口減少がある中、若者、高齢者、どの世代でも住み続けたいと思えるような地域になれば、福祉のネットワークだけでなく、地域に暮らしているそれぞれの立場から住みやすい地域に対してのアイデアを出し合い、形にしていきたいと思っています。

●ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧になれます

長野県社会福祉協議会 福祉・介護べり帖



長野県福祉研修実施団体 きやりあねっと

信州福祉・介護のひろば



ざわめくアート

『無題』

クレヨン、油性ペン

作者:竹内 一貴(たけうち かずき) 34歳
駒ヶ根市在住

障害のある人の表現活動にかかわっていると、障害の重い、それも言葉によるコミュニケーションが苦手な人の、クレヨンなどでぐりぐりとそのリズムを楽しむかのような表現によく出会う。こういった表現は単なる殴り描きであり、稚拙な表現として、アートではないと評価され、スルーされることが多い。果たしてそうなのか？

竹内さんがクレヨンを手にしたとき、これまでの人生の中の記憶から、様々な風景、デキゴト、感じたことが脳の中ではイメージされており、ただそれが障害ゆえにそのイメージが、手先の動きとうまく連動していないだけなのかもしれない。この何度も行ったり来たり、グルグル回転した線には竹内さんのモノガタリ、想い、そしてその時の感情が込められている。それを『アート』と言っていいのだろう。世界的に有名な現代アートの作家の中にもこのような殴り描きの表現(スクリブルという)をする人がいる。それとどこが違うのか？今日も竹内さんは楽しそうに夢中にクレヨンをぐりぐり、ぐるぐる。(ながのアートミーティング 取材)